

# あいあいあい

I eye 愛

2022年  
11月号



10月9日 七郷の畑でさつま芋収穫体験

## 田畑に「実り」 組合員のころにも「実り」

理事 太田代 一世

あいコープには、組合員が生産者と交流しながら農作業を体験する企画があります。新型コロナウイルスの影響で参加者を募ることができず、生産者と理事や職員、地区委員の力で田んぼを維持してきた大郷・七郷の無農薬交流田、はさま自然村の生産者が育てた苗を各家庭で育てるバケツ稲。

様々な農作業の活動に携わるようになってからというものの、危機感を抱くような異常気象と隣り合わせで生産する人たちのことを、より理解するようになりました。毎年のようにやってくる災害に、今年こそは何事ありませんようにと祈りながらおられます。今年も、黄金色に実った田んぼの横を通りながら、生産者、組合員と共に実りの秋を迎えられた喜びを実感しています。

大郷、七郷の田んぼに来る組合員さんは「無農薬で作物を育てることがどれだけ大変なことかを実感している」という感想を、活動後のアンケートに書いてくれました。「田んぼを見るたび、交流田の稲はどうなっているかなと家族で

話しています」などの声もあります。バケツ稲作りでは、参加者がネットのチャットで「一部が枯れてしまいました…」「出穂しました！」と状況を共有しつつ、困りごとにははさま自然村の生産者からのアドバイスが。一緒にお米を育てている感覚がたまりません。

そして先日、七郷体験圃場での「畑の活動」を再開することができました！仙台えんのう倶楽部の方々のご協力の下、組合員家族がさつま芋の収穫体験を行いました。土の中から出てくるさつま芋を嬉しそうに収穫する子どもたちの笑顔もまた、秋の実りです。

食と農を大切にするあいコープ、産地直結のあいコープは、毎年限られた人数ではありますが、組合員が実際に土に触れて体験をすることで、食と農のありかたを考える人が増えていくことを願って、活動を続けていきます。機会があればご参加ください。

今年も活動を陰で支えてくれた生産者、参加してくれた組合員にもたくさんのお礼を伝えたいです！収穫の秋、バンザイ！

### CONTENTS

- ▶ やっべりりんごバーチャル園地ツアー開催 …2
- ▶ 祝★社会福祉法人みんなの輪 20th …4-5
- ▶ ケアミート研修会開催 …7
- ▶ 共生会幹事会と理事会が交流 …3
- ▶ あいシテルのラーメンに新顔登場 …6
- ▶ 生産者さんにあいに行こう「立花椎茸農園」の巻 …8

# 収穫の秋 農産の組合員交流イベントが続々と開催

9/17(土)

## 天童りんご園地 オンラインツアー

コロナのため今年度も天童果実同志会の園地見学ツアーはオンラインですが、今回はスタツフが天童へ出向き、天童果実同志会事務所から「生配信」！生産者がより近く感じられるツアーとなりました。

それぞれの人柄を感じる生産者の自己紹介から始まり、「あいコープとは40年以上の付き合い」という天童果実同志会会長の片桐完一さんのお話にも歴史を感じました。今年4月に同志会に加入したばかりという生産者、松田祥子さんの自己紹介は思わず応援したくなる初々しさ。会場に集まった5名の生産者と楽しくおしゃべりするよう時間をお届けしました。

園地の動画ではりんごの木の表面に寄生するワタムシの被害状況を見ました。ワタムシのついた枝も実際にカメラで映しながら、ライブならではの



新加入の生産者 松田祥子さん(左)  
会長の片桐完一さん(右)



りんごの妖精？ 片桐雅人さん(中央)  
伊藤洋平さん(左)片桐道也さん(右)

のお話が聞けました。このひどい状況を見て、ネオニコチノイド系農薬(あいコープの栽培基準「トライアイズ」では禁止成分)を使用せざるを得なかったことも納得出来ました。参加者からの「農薬の残効性はどれくらいですか?」と心配する声を受け、あいコープ商品部の千葉職員からあいコープの栽培基準の説明があり、洗うことで落ちやすい農薬と落ちにくい農薬(ネオニコチノイド系農薬などの浸透性農薬)があることなどが参加者に伝えられました。環境や人体に影響の少ない栽培技術を工夫し、いかに最低限の農薬使用回数に抑えるか、生産者は厳しい現実の中でチャレンジを続けています。片桐会長の「買い支えてくれる人がいるからトライアイズにチャレンジできる、若い人たちにつないでいける」という言葉が印象的でした。

今後産直りんごをたくさん利用し、生産を支えて、未来のりんご繋いでいきたいですね!

理事 佐藤 有子

10/8(土)

## 大郷みどり会 無農薬交流田 稲刈り

秋晴れの下、手塩にかけて育てた稲穂が誇らしげに垂れている姿を目に喜びが湧き上がりました。

この半年、毎回頭を合わせて参加してきた20家族は「仲間」のような感じでした。生産者さんからも「稲の成長と子どもの成長が同時に見られました」と嬉しい声。最初は田んぼに入らなかった我が子も今日は長靴姿で果敢にお手伝い!

まず、稲を刈る人、その稲を紐で束ねる人、棒がけする人に分かれしました。先日の台風の影響で一部の稲穂が倒され株元が見えず、手刈りするのが大変でした。しかし慣れると簡単で、ザクツザクツとリズムカルな音が、鎌で稲を刈る度に心地よく響きます。これまでのどの工程より時間がかかりましたが、ワクワクする作業でした。

田んぼの脇には棒がけ(別名ほんによ)が12本。稲束を十字にかけてじゅくりーヶ月天日干しします。お米の水分量を15%以下に保つと長期保存できるそうです。また、稲束三束でご飯茶碗一杯分になるそうです。この田んぼ一枚で何人ご飯が食べられるかなあ?何人が笑顔になるかなあ?

11月の脱穀ともみすり作業が最終回。新米を囲む食卓が楽しみです!

しおさい地区委員 中鉢 典子



豊作に喜びが溢れました



刈ったり運んだり 分担して作業します



しっかり実が詰まった穂が垂れています

## 生産者と共に進むあいコープ 共生会幹事とあいコープ理事の交流会開催

共生会とは、あいコープと取引のある生産・加工・卸業者の集まりです。9月2日あいコープみやぎ日の出町センターに、あいコープみやぎ理事会メンバーと共生会幹事8名が集い、顔合わせの交流会が開催されました。

自己紹介では、それぞれの意外？な趣味やスポーツの話で盛り上がり、和やかな雰囲気の中グループ討論に突入。くじ引きで分けられた、理事と生産者の混合グループそれぞれに、討論するお題が与えられます。



お互いを知り より親密になれる  
楽しい交流会となりました



開会の挨拶をする  
共生会副会長 阿部寿一さん  
(丸壽阿部商店)

私が入ったグループのテーマは「援農チームの必要性と、有機認証商品の提供が困難になった場合の対応について」…なかなか時宜を得た、骨太なテーマです。

産地への援農といえば、「仙台東のう倶楽部」と今年からスタートした「産地応援し隊」その必要性とは？ 有機認証商品の提供では、8月に大郷みどり会の有機認証小松菜ハウスが全滅した台風被害が記憶に新しいですね。「注文していた・しよ」と思っていた有機などの商品が、何らかの理由で手に入らなくなった場合、組合員はどう動くのか？…あなたならどう答えますか？

理事 石井 朱里

## 自然災害基金から 産地に見舞金贈られる

7月16日未明からの豪雨で、特に大きな被害を受けたあいコープの農産産地に、あいコープ自然災害基金から支援金と見舞い金が贈られました。支援金、見舞金は、各産地の被害額に応じて左表の通りとなりました。基金募集に応じて下さったみなさま、ありがとうございます。

9月6日、大郷みどり会の西塚忠元さんと、はさま自然村の芳賀定一さんがあいコープ日の出町センターを訪れ、被害と復旧の状況について理事会に説明をし、感謝の言葉を述べられました。

大郷みどり会	支援金	50万円
はさま自然村	見舞金	10万円
芳賀 裕	見舞金	5万円
フェニックス	見舞金	5万円
雁音農産	見舞金	5万円



目録を受け取る生産者のお二人



有機小松菜の被害を説明する西塚さん

## LPAの会 主催 家計簿座談会

みなさんは家計簿をつけていますか？物価が上がる一方で、なかなか収入は増えず家計は厳しくなるばかり…。

9月27日、家計簿をつけている方もつけていない方も、続かない理由や続けるコツなどを、みんなで自由におしゃべりをする会を開催しました。

1グループ4〜5人ずつに分かれて、家計簿を何でつけているか（手書きやExcel、アプリ等）、また、日ごとの家計についてのお悩み、そしてあいコープでのお気に入り商品の話題まで話が広がりました。

LPAの会担当理事 佐藤 美恵



同じような悩みを話し合い  
家計を見直すよい機会になった





# 社会福祉法人みんなの輪 設立20周年

## あいコープとの協業の輪をこれからも



### 社会福祉法人みんなの輪とは

10月16日、トークネットホテル仙台にて、社会福祉法人みんなの輪の20周年記念集会在行われ、あいコープから10名の理事が参加しました。みんなの輪は、宮城県内に「わ・は・わ」をはじめとする18の事業所を展開しています。あいコープ組合員が利用するパンや焼き菓子など、商品の製造はもちろんだ、日の出町センターの清掃を委託するなど、あいコープとの協業で密接にかかわるみんなの輪は、あいコープから生まれた組織なのです。

障がい者の生活支援から、お仕事ができる方にはその方に適した仕事ができるよう支援し、自立へ向かうお手伝いをしています。

### 生協はそもそも福祉であり 生協そのものが福祉である

20周年記念集会で登壇した吉武洋子理事長は、「自己責任」が押し付けられ、助け合つことや他者を思いやる心が薄れている世の中で、この先、社会福祉法人が存続できるのかと不安を漏らしました。福祉の根幹となる「助け合い」の精神は、「力を合わせみんなで幸せになろう」と人々が集う生協の活動に体现されます。生協の成り立ち自体が福祉活動なのです。あいコープから生まれた「みんなの輪」ですが、みんなの輪があるからこそあいコープは「生協」でいられるのだと、吉武理事長は語ります。みんなの輪に仕事を提供できるのはあいコープが生協である証、素晴らしい本物の「生協」である証だと、列席者を激励しました。弱い立場にある障がい者が

支え、共に働き自立を見守るみんなの輪の職員と共に、私たちあいコープが「福祉」を守り続けることは、やがてより良い世の中を作り、今は健常者と呼ばれる人々にも恩恵をもたらすでしょう。誰だって、温かく優しい社会に生きていたいと願うはずです。「自己責任」の冷たい言葉が飛び交う社会を変える、政治を変える。それができる運動体であれ！吉武理事長の言葉に、あいコープとみんなの輪がこれまで以上の「輪」と「和」でつながり、組合員や利用者さんの満足を目指すことにとどまらず社会を変えていくのだと、道しるべが見えた記念集会でした。

(文責：理事 鈴木真奈美)

### 「障害のあるなしにかかわらず 誰もが安心して暮らせる 地域社会をめざして」



わ・は・わ大館の壁に直接書かれた理念は取り外すことも書き換えることもない



世の中の不条理に怒っていい！ 職員を励ます吉武理事長



みんなの輪職員や理事をはじめ約100名が20周年を祝った



あいコープからロゴと記念動画を寄贈する高橋正人専務理事(左)



あいコープからのお祝い新しいロゴマーク

### 「みんなの輪」の生い立ち

社会福祉法人みんなの輪 理事長 吉武 洋子さん

「社会福祉法人みんなの輪」は今年設立20周年を迎えました。1997年に若林に精神障害者小規模作業所「わ・は・わ」を作ったから25年になります。国の政策変更により社会福祉法人設立が必要となり、基本財産1000万円を捻出するため、組合員と生産者に寄付を募り800万円、残り200万円を生協が寄付し、2002年2月、「社会福祉法人みんなの輪」が誕生しました。当時を知らない組合員の中には、なぜ生協がそんなことを疑問に思われる方もおおいかもしれません。

もともと生協は相互扶助、つまり助け合いの仕組みから出発して

います。イギリスの炭鉱町ロジデール、貧しい炭鉱労働者28人がお金を出し合い、暮らしを守るため食料品などの共同購入を進めたのが、生活協同組合、生協の始まりとされます。その後ドイツやフランスにも広がり、日本でも1921年に神戸の貧困地域に神戸購買組合が生まれ、現在のコープ神戸に発展しています。このように生協そのものが組合員の相互扶助、助け合いを基盤に誕生しています。ですから生協が助け合いを進めるのは当然のことです。助け合いに取り組まず、単に安全食品販売業になつていたら、それは生協ではありません。そして自分たちの利益ばかり考え、より困難な状況にある人々に手を差し伸べないならば、生協組合員として失格でしょう。

生活協同組合あいコープみやぎは、障がい者に働く場を提供すると共に福祉現場で生産されたパンや菓子、イチゴやジャムなど購入し続けることで、組合員・障がい者が同じ地域社会に生きる仲間として助け合い生活する為に大きな役割を果たしています。



作業所の軒先で市を開いたことも



1997年 小規模作業所わ・は・わ開所式で挨拶する吉武理事長



2002年2月21日 みんなの輪設立記念式典

## みんなの輪のみなさんの商品が 私たちの暮らしのそばにある

社会福祉法人みんなの輪の事業所「わ・は・わ」では、組合員の生活に欠かせない様々な商品を作っています。最新のお仕事であるあいコープミートセンターの「わ・は・わ職員」である岩館さんにお話を伺いました。ミートセンターではお肉をスライスしてパックするのが仕事。障がいのある利用者さん誰もができる仕事ではありませんが、向上心を持ち、難しい仕事に挑戦する方をサポートするのが岩館さんの仕事です。現在7名の利用者さんを、常時3名のみんなの輪職員がサ

ポートします。強要はせず、その方がやりたいこと、できることを、どうやったらできるか工夫し、あくまでも利用者さんが主役という働き方を実践しています。利用者さんのサポートをするためには、福祉職員としてだけでなく、自らも食肉加工職員としてお肉のカット技術を習得しなければなりません。職員もまた、研鑽を重ね一緒に仕事をしているのです。ミートセンターの仕事は、能力と生鮮品を扱う責任感を求められますが、その分だけ、

工賃は福祉事業所の工賃としては比較的高額です。障がい者が自分の力で、生活の基盤になる工賃(=賃金)を得られるよう支援する岩館さんら職員。様々な特性を持つ利用者さんとのコミュニケーションは多難ですが、目標を達成した利用者さんの姿は眩しく、喜びを感じると言います。利用者さんがいつか、社会で活躍し自立できることを大きな目標として、みんなの輪の現場では今日も地道な仕事が続いています。



社会福祉法人みんなの輪 わ・は・わ 岩館 健さん



こめ豚/田尻 米粉/味明 さいかち/広瀬 焼き菓子/大衛 パン/パン工房 ジャム・いちご/美里・南郷

### 9/30 消費者の暮らしと権利を守る 宮城県生協組合員集会

9月30日(金)、第43回宮城県生協組合員集会在電力ホールで開催され、オンライン、会場参加合わせ約400名の参加がありました。会員生協の取組みの紹介では、あいコープみやぎから「たねまきプロジェクト」の活動、遺伝子組み換え菜種調査、安定ヨウ素剤配布会開催」の紹介を行いました。また、平和、若者支援、環境の観点から3名の方によるリレーアピールが行われ、中でも日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノ氏からは、気候変動を止めるために足元からアクションを起こそうという力強いメッセージが発せられました。 理事 八重畑 ゆかり



あいコープの活動が報告されました

### 不安な気持ちに寄り添う甲状腺検査会 今年も開催

9/17、18の2日間、あいコープみやぎを会場に「甲状腺エコー検査」が開催されました。主催は「放射能問題支援対策室いずみ」。2011年の福島第一原発事故以来、甲状腺がんなど、放射線の影響を受けると言われる病気への不安を感じ続ける方に寄り添い、宮城県内各地で2013年から継続して無料の甲状腺エコー検査を実施しています。福島では10年経って初めて甲状腺がんが見つかる方もおり、まだまだ継続的な検査が必要であると感じます。今回は2日間で28家族58名の方が受検されました。今回受診した方は全員、明らかな異常は認められず、皆さん安堵して帰られました。これから検査を受けてみたい方は是非いずみさんのHPをご覧ください。 理事 櫻井 洋子



のどの部分の甲状腺を超音波で検査します

おだいのたねまき







「ラーメン屋さんより美味しい」と  
定評のあるあいコープのラーメン

## いよいよ！とんこつラーメンが仲間入り

ゆっくりではありますが秋も深まり、温かいラーメンの恋しい季節がやってきました。あいコープのPB「あいシテル」のラーメンに11月1回から新商品が仲間入り。現行の「醤油味」「みそ味」「辛みそ味」に続く、お待ちかねの「とんこつ味」です。

あいコープの生ラーメン(スープ付き)の麺は「マツダ製麺」の国産小麦の麺。スープは、あいコープ仕様で作ってくれる食品会社の化学調味料不使用スープです。

新型コロナの影響で外食を自粛する組合員も多かったのか、ラーメンの利用は好調でした。自粛の影響は落ち着きを見せてきましたが、まだまだご家庭で喜んでもらえる新商品ができないかと検討していたところ、食べた時の美味しさはそのまま、食後の臭いが残りにくい特別仕様のニンニク(しかも国産)を使っての商品開発の話があり、ラーメンスープに活かそう!と検討を開始。ニンニクがよく合う「とんこつラーメン」の開発が始まりました。

とんこつラーメンと一口に言っても奥が深く、多様な種類があります。ここはやはり、組合員に長く愛されている鎌田醤油の醤油を使いたいと、醤油ベースのとんこつスープを選び、何度も試作を重ねました。

国産のとんこつを使ったポークエキスを使用し、前述の「国産ニンニク」で香りを出したうえ、可能な限り遺伝子組み換え原料を排除。化学調味料不使用の、あいコープならではのとんこつスープの完成です。

麺の製造はもちろんマツダ製麺。醤油ラーメンより一回り細い新タイプで、とんこつスープに合う歯ごたえのある細麺に仕上がっています。

『あいシテル』のラーメンにバリエーションが増えて、ますます「おうちラーメン屋さん」の人气がアップしそう。冷えた体を温める食卓の湯気と、食欲をそそるニンニクの香りで、ほっこりした冬を迎えられそうです。

みそ・しょうゆ・とんこつ  
お好みで辛みそも！  
ラーメン兄弟をよろしく



## ええのうえんのう

消費者が実際自分の食べている作物の畑でお手伝いを行う「産地応援」に参加していただき半年が過ぎました。援農してみると、生産者の実情がわかります。現場は人手不足で研修生ありき。天気で作物が全滅してしまうような時でも助け合い、楽しそうに生産していることや、種子法が廃止されてしまったが故に新たな取り組みを始めたことなど。そして実際に農作業することによって家庭菜園の参考にもなりました。活動する中で気づいたことはすぐに対応していただけでしたし、「産地応援」はボランティアでもバイトでもない、お手伝いという立ち位置がやり易かったとも思います。

ですが、段取りする方の負担が大きいのでは、とか真夏のハウスは普段運動していない人には難しい作業なのではないか、など思う点もありました。

このお手伝いが広がり人手不足の生産者の負担減、あわよくば価格の安定に貢献できればと、来年度も参加させていたいただきたいと思っています。



除草作業をする太田代さん

### 組織概要

(2022年9月分)

【組合員数】	15,649名
【供給高】	240,291千円
【一人実利用高】	5,261/週
【出資金】	1,321,031千円

### 理事会議事録抄

2022年10月4日(火)

▼10月以降の組合員活動における新型コロナウィルス感染拡大防止対策について決定した▼冬水田んぼプロジェクト企画を承認した▼総代懇談会企画を承認した▼シャボン玉フォークラム実行委員会立ち上げおよび基調講演講師について承認した▼「食の未来を守るカンパ」募集について承認した▼映画「教育と愛国」上映会企画を承認した▼「Wa!わあ祭り2022会場イベント」の各ブース企画について承認した。

ちよつと  
ひとこと

●稲を刈りながら真上に広がる青空と稲穂の景色に胸がいっぱいになりました。子ども達にも同じ景色を見ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。(大郷無農薬交流田 稲刈り参加者アンケートより)

誰もが安心して暮らせる社会を

ジョイケア活動  
おこなっています

## 9.16 ケアメイト研修会を開催



ケアメイト研修会の様子

ジョイケアシステムの中で組合員同士の身近な助け合いとして、日常のちょっとした困りごとを手助けする「たすけあい」や、集団託児の託母さんなどで活躍しているのがケアメイトです。コロナ禍のため、活動が制限される状況でしたが、少しずつ緩和し、9月より「たすけあい」活動の屋外ケアに加え、屋内ケアを再開しています。

9月16日にはケアメイト研修会を約2年ぶりに開催しました。研修会ではあいこープより方針と今後のケア活動についての説明を行い、質疑応答や意見交換

もしました。お友達ケアやケアメイト活動中のけがなどへの対応について具体的な例をあげての質問もあり、改めて考えるいい機会となりました。

参加したケアメイトさんたちは直接会って話ができたとことへの喜びを実感した方が多く、人と人とのふれあいの大切さを今更ながら感じました。

皆さんもケアメイトになって一緒にお手伝いしてみませんか？常時募集中です。お問い合わせはジョイケア事務局へどうぞ！お待ちしております。

ジョイケア担当理事  
三浦一枝

お問い合わせは  
ジョイケア事務局

☎0120-50-7277  
(平日9時~16時)



### 私のオススメ商品



私のおススメ商品はポールスタアの桜井花筵堂のごまみそめんつゆです。かつお風味のつゆに練りごまとすりごま、信州みそを加えた、さっぱりしているのにコクがある美味いつゆです。

どんな麺にもありますが、私の一押しはサラダうどんです。夏野菜に凄くあいます。きゅうり、トマト、なすは素揚げにしてのせてもおいしかったです。

毎年夏の暑さにさっぱりと食べられるものを探していたところ、まんま通信を見てなんとなく注文してみたら美味しくてビックリでした。それからは毎年注文していますが、私としては暑い時期のみならず年中利用したい最高の一品です。

事業部 営業課：高橋咲子

### 編集後記

みんなの輪の20周年記念集会に参加し、筆舌に尽くしがたい感動の中で特集記事を書きました。私は薄情な人間で自分のことしか考えていないと思っていたけど、地域福祉を真剣に考える（少しだけ）人間に育ったな...と、いい歳で自分の成長を感じました。生協が私を育てた。生協から繋がるたくさんの人との出会いが私に何かエキスを加えた。今後の生き方を左右する大きなポイントです。10年前、安全な薬物野菜を手に入れたくて加入したあいこープで、相互扶助や社会福祉の精神も手に入れそうです。

広報担当理事 鈴木真奈美

### Present アンケートプレゼント

機関紙あいあいあいにご意見感想をお寄せください。抽選で3名の方にあいシテル商品をプレゼント！右のQRからどうぞ。



### 組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは  
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00~16:00

年金相談・12/13(火) 社会保険労務士 清野道子氏

13:30~15:30

法律相談・12/13(火)、12/21(水) 弁護士 倉林千枝子氏

13:30~15:30

傾聴・12/13(火) NPO法人仙台傾聴の会 森山英子氏

10:00~12:00

子ども相談・12/20(火) 宮城教育大学教授 菅井裕行氏

10:00~12:00

介護相談 (ケアプラセンター木もれび 山崎彰子氏) は相談希望日をうかがいます。

▼随時受け付け可能です。各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。▼金曜日祝日の場合は直前の平日の受付終了時間まで受付します。▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

## ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいこーみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。個人で利用できるサービスとして、ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談があります。ケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。

### ジョイケア利用状況 (2021年9月分)

ささえあい(保障)	0件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	16件	利用延べ人数	0名
集団託児	0件	◆ケア時間	21.5時間
慶弔・出産・お見舞 BOX	22件	*Covid-19の為、活動を	制限していました。
電話相談窓口	7件		
計	45件		



●もう何年も食べ続けているPB商品ですが、どんな生産者さんがどの様にどんな気持ちで作っているのかということがよくわかり、素晴らしい映像だと思いました。あと、映像がとっても綺麗ななあと思いました。(あいシテル動画クイズ感想)



原木しいたけにこだわる貴重な椎茸農園

共同生産者として山の幸届けます!



しいたけ生産者 有限会社 立花椎茸農園  
芳賀 裕さん 立花 剛さん  
(登米市東和町) (岩手県紫波郡矢巾町)



立花椎茸農園のハウス内  
整然と並ぶほだ木から伸びる椎茸

「初めまして。立花椎茸農園の立花です」と現れたのは、アパレル関係と見紛うようなお洒落な男性。若き日、一度は東京で就職したものの、ご両親が始めた椎茸農園を継ごうと決意し、この世界に入って18年目という立花剛さんです。それまで色々な仕事をしたけれど、今が一番面白いと語ります。手を掛ければそれに応え美味しくなる椎茸は、我が子のように可愛く、「時々『そろそろ椎茸になりたいよ〜』とほだ木から声が聞こえる気がするんですよ」と話してくれました。

あいコープの原木椎茸生産者と言えば、東和町の芳賀裕さんがおなじみです。しかし、芳賀さん一人では栽培の手が回らず、時に欠品して組合員をがっかりさせてしまう現状を何とかしたいと、芳賀さん自ら、同じ「原木しいたけ」に情熱を注ぐ同業者の立花さんに、共同生産者になって欲しいと持ち掛けたと言います。それに応え、初めての「生協」への出荷を決意してくれました。

立花椎茸農園では年間5万本のほだ木を使い椎茸を栽培します。2011年の福島第一原発事故で、きのこ類の生産現場は出荷制限などかなりの影響を受けました。立花さんの農園は被害が少ない方ではありましたが、岩手県北産の原木を使い、原木の管理にも注意を払い、少しでも外部からの放射能の影響を受けないよう工夫を重ねながら、栽培・出荷を続けてきたそうです。



椎茸の旨さを引き出すには「ただ焼いて、塩!」と自ら焼いてくれた立花さん



廃ホダを燃やしてハウスの暖房に使う

廃ホダ(使わなくなった原木)をストーブで燃やし、ハウスの温度管理に利用するなど、資源の循環も意識して栽培を続ける立花さん。山の環境(林業)を守ることが、伝統的な原木椎茸を守ることに繋がると言います。昨今では異常気象に悩まされたり、仕入れるほだ木の価格が上昇したりと、栽培も経営も決して楽ではないそうです。しかし、これからも原木栽培にこだわり、森のうま味をたっぷりと溜め込んだ椎茸を組合員の食卓に届け続けてくれることでしょう。

私が椎茸栽培に就農して18年になります。一本一本原木を手で運ぶ作業からのスタート。手が掛かるし体力も必要な仕事だと感じました。

椎茸栽培の難しさは環境の管理。毎年同じ管理ではなく、その年の状況に合わせて、椎茸が出やすい環境を管理しなければなりません。管理を間違えて数千本の原木をダメにしたこともあります。

私たちは、昔ながらの「原木栽培」で椎茸を育てます。原木栽培とは、山から切り出した原木(丸太)に、しいたけ菌を植えて栽培する作り方です。

(原木は山の間伐材を使用し、環境への配慮をしています。)自然の恵みである太陽・水・原木のエネルギーだけを使って栽培しますので、自然食&オーガニックに近い食べ物です。また岩手県は朝晩の寒暖差があるので、原木の栄養をじっくりと吸収して肉厚でうま味のあるしいたけが育ちます。

これからも皆様に安全・安心、そして「うまい!」と言って頂ける椎茸をお届け致します。

立花 剛

12/7 タネと GMO 学習会  
水「命のタネを未来へつなごう」

シードバンクや OK シードプロジェクトの取り組みを学び、「たね」を考える学習会です

場所/ オンライン (zoom) 開催  
自宅からパソコン、スマホで参加  
時間/ 10:00~12:00  
参加費/無料  
※詳しくは後日配布になるチラシをご覧ください



食の未来を守るカンパのお知らせ

タネと GMO 学習会の開催に合わせ、この活動を支援して下さる皆さんからのカンパを募ります。寄せられた支援金は、OK シードプロジェクトの活動資金として寄付されます。

カンパ受付期間:  
現在~2023年1月4回の週

申込番号:  
000869 一口 300円  
222869 一口 300ポイント

委員さん募集中!

あいコープの仲間と 食のこと 環境のこと 一緒に話しませんか?  
お問い合わせ先  
0120-255-044  
Fax 0120-849-324  
Email soshiki@mamma.coop  
(担当:組織運営室長 豊嶋)



女川原発が止まってから

4254 日目

(2022年11月1日現在)